陶器圖鑑

卷之壹

森雄山著

日本古代模様

京都 芸艸堂蔵版

(with:

京都 芸艸堂藏版

日本古代模様

森雄山著

叙

繪畫ハ工藝の母にして萬工の意匠皆是より生出さる素畫法
尤に於て特に図案家を重んずる所以ハ良に以て偶然
の便法をとりたに美術に関する工場其他機業ハ素より
工業上諸般に至るまで図案家の良否に由て上下せらる
を得べし蓋し近来本邦に於ける一般の我邦ハ本来美
術工藝を以て立ちし其技術ハ遠く意匠家に於て識認せしも
の如何なる抑も図案家たる技術家の地位ハ猶卑
くして此業のみを以て世に立つもの殆んど稀なるハ豈惜むべき
事の甚しからずや春文氏ハ夙に陶業に従ひ且図

業農を以て自ら任せし思ふに性来の嗜好によりて此の
めくあるべきも抑又深く考ふる所あるにあらざらんハ何の好
んしては名利の為にせざる此業務に従事するものならんや
かくて田疇に年来私銭を投して荒蕪せる新故の穫
様園なくは自家の意直に深る鶏卵の應用園藝を獲
め之を擇に上せて務に当ふるせんとする益ある私
名小利を衡ふに何ぞまして専ら当国将来の富實
家に為せんと務むるものゝ家業為めに努力を盡さく
以て深き其の基礎を小國として而して自ら其の累を遺へて
未まの所以なり　以上
此家人甲斐深達

萬曆年製

見込

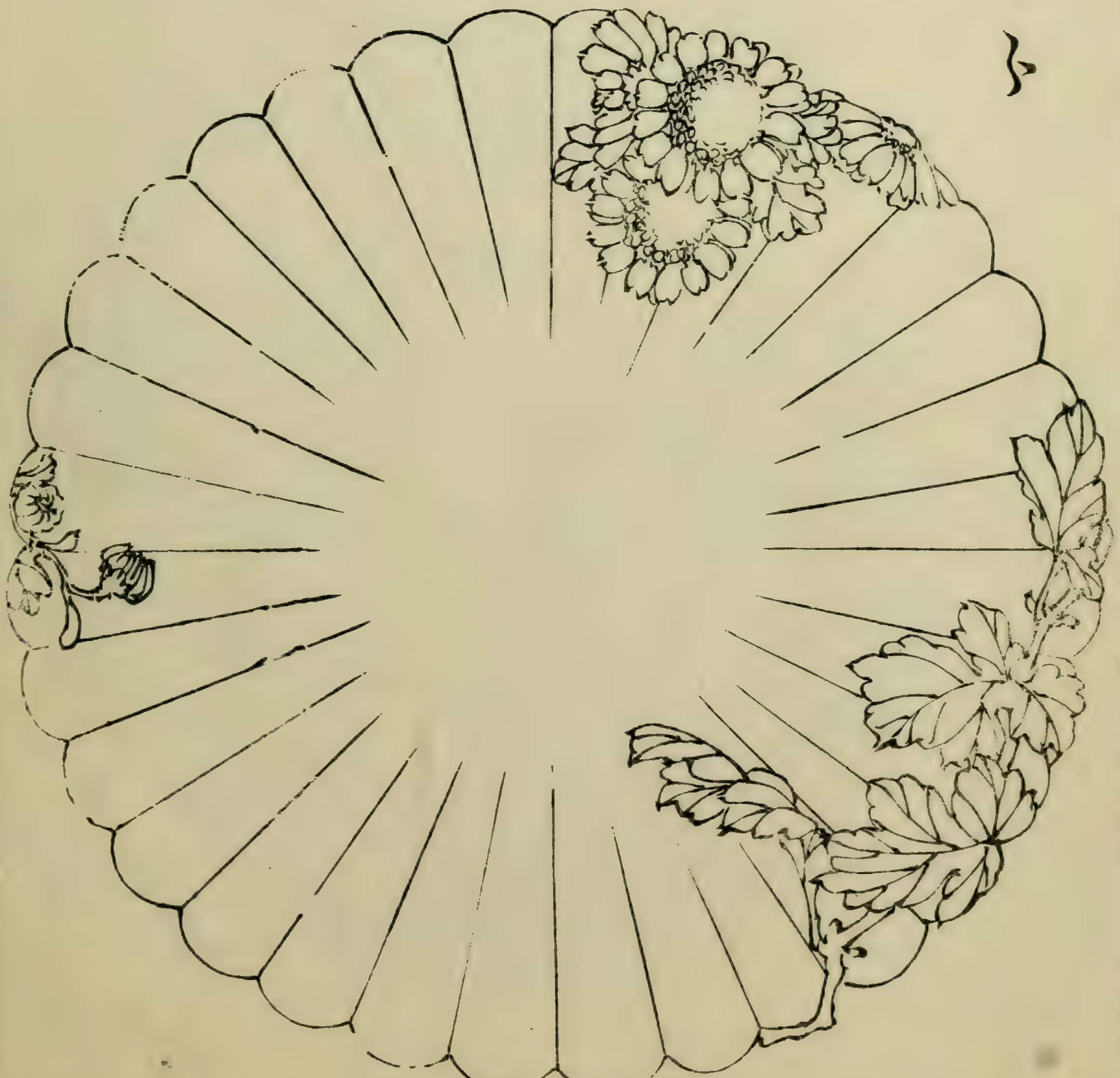
大明萬
曆年製

永樂湯次

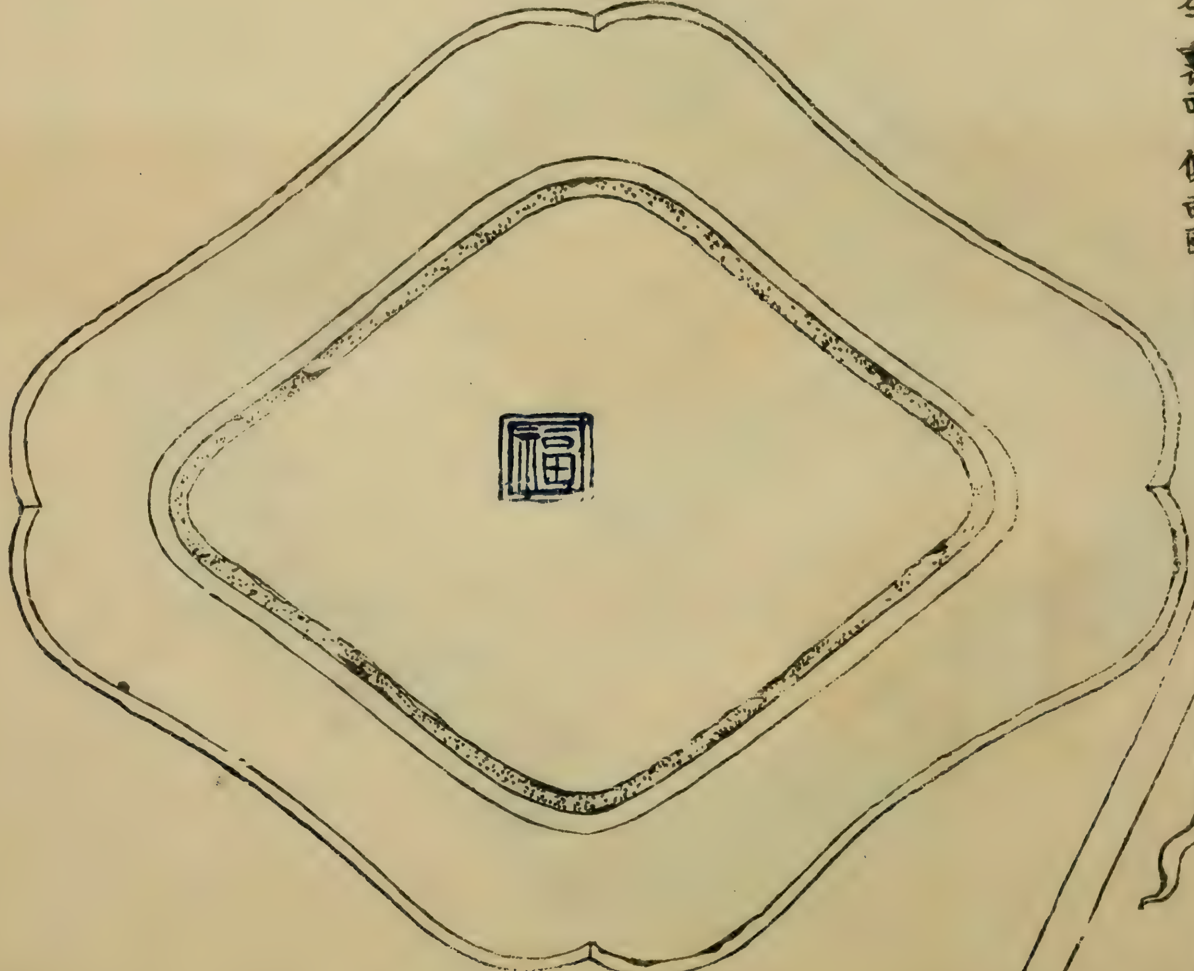
會員 春名繁春寫

改良急須

きく



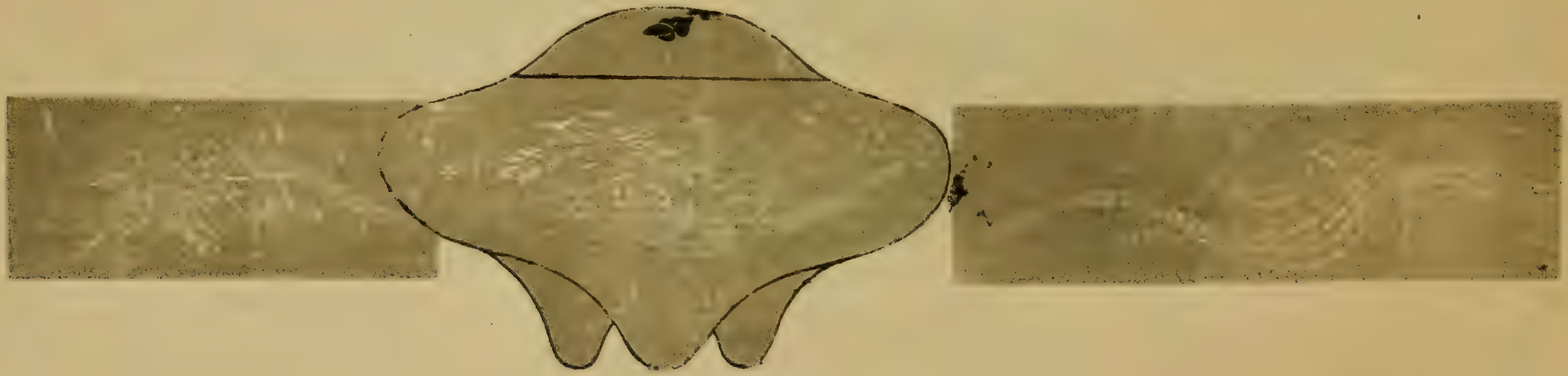
古九谷窯 向付 皿



仝 裏面及側面圖 切斷

藤模様ノ香爐

蓋ノ平面圖 白キ蝶ハ透シ



會員島田佳矣考案

古伊萬里

西郷石森氏蔵

裏菊形襖引手

断面

古瓦形襖引手

萬歳

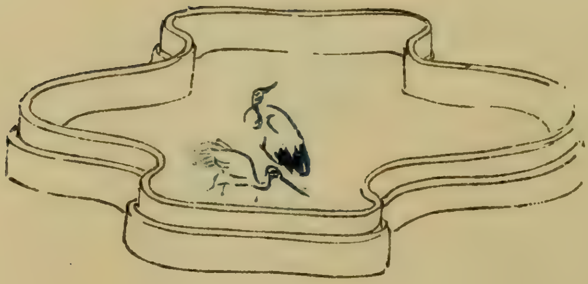
富貴　番々居　熙之居所蔵

和哥乃浦香盒図案

但シ磁器染付

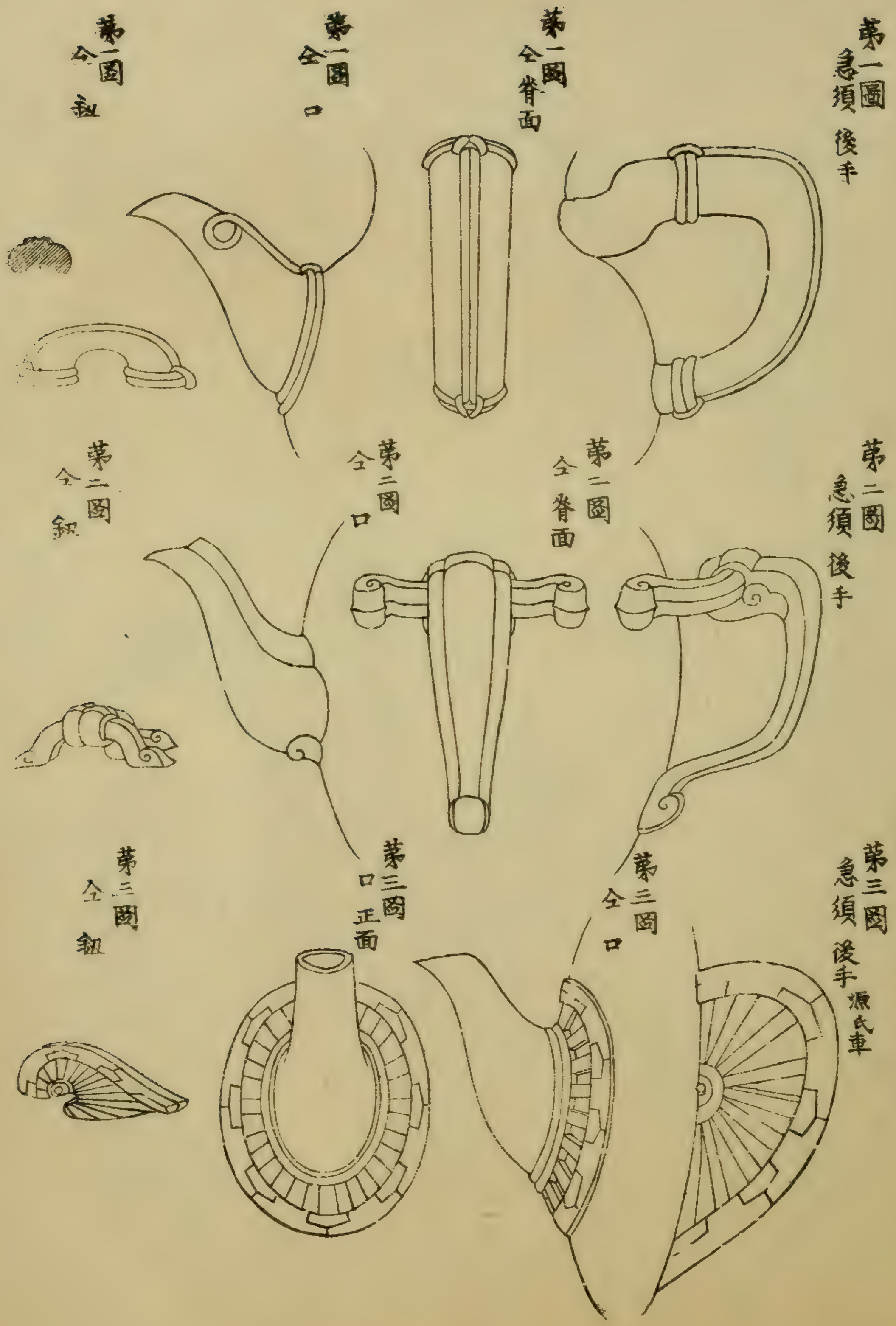
蓋裏図

内正面図



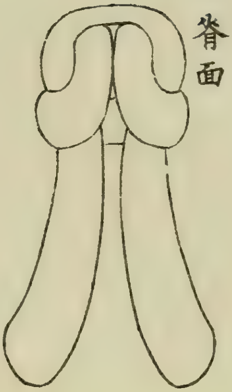
正面図

會員島田佳矣考按


第一圖 急須 後手
第一圖 仝 脊面
第一圖 仝 口
第一圖 仝 鈕
第二圖 急須 後手
第二圖 仝 脊面
第二圖 仝 口
第二圖 仝 鈕
第三圖 急須 後手 源氏車
第三圖 仝 口
第三圖 口 正面
第三圖 仝 鈕

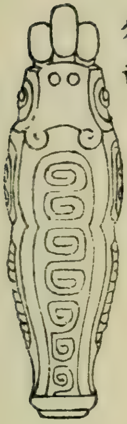
第四圖 耳 結紐式

第四圖 脊面



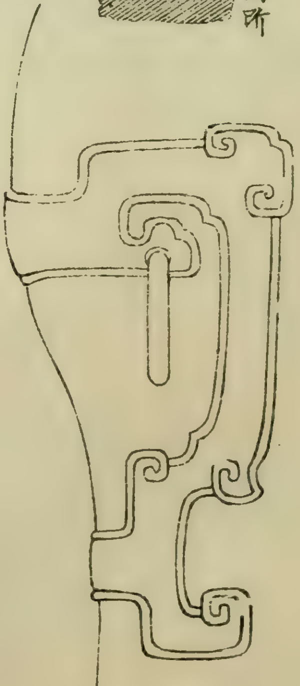
第五圖 耳 鯉魚式

第五圖 脊面

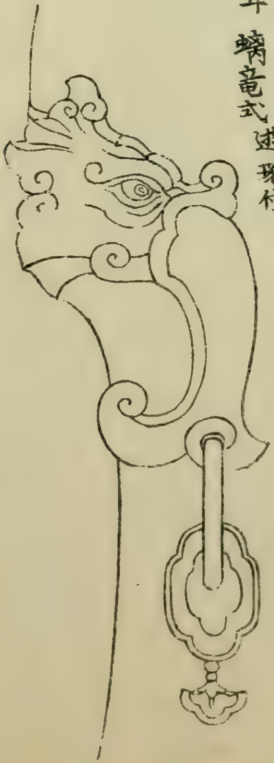


第六圖 耳 雷紋式 遊環附

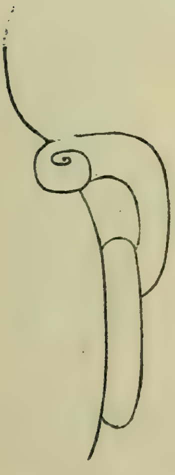
仝切所



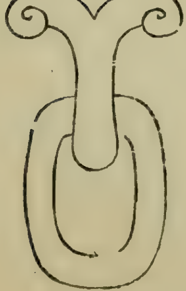
第七圖 耳 螭竜式 遊環付



第八圖 耳 遊環付

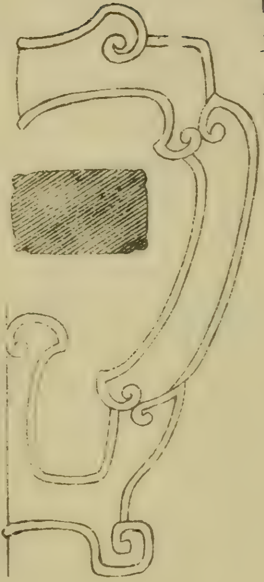


仝 脊面



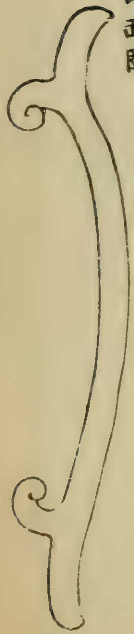
第一圖耳 雲紋式

第二圖耳 雲紋式



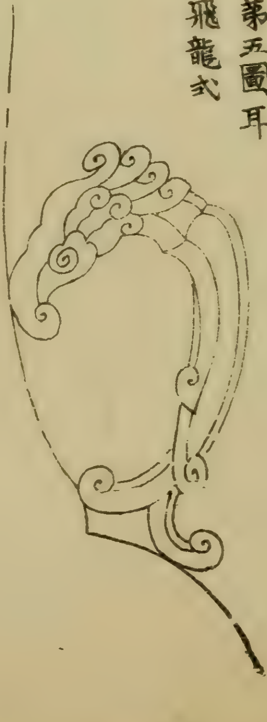
第三圖耳平面 七宝紋切透 鈎刀ノ意

仝側面圖

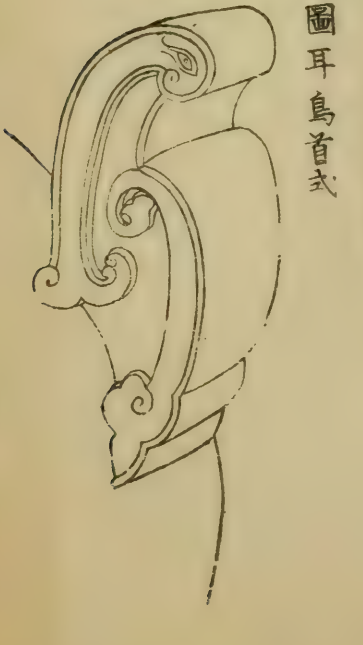


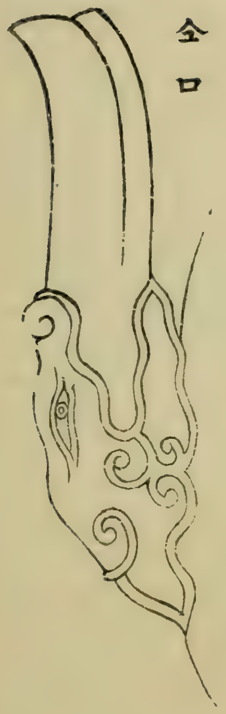
第四圖耳 鯉魚式

第五圖耳 飛龍式



第六圖耳 鳥首式



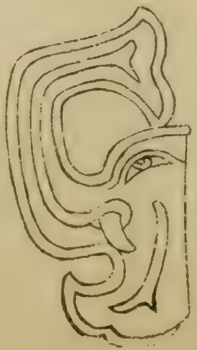


第七圖手獸首式

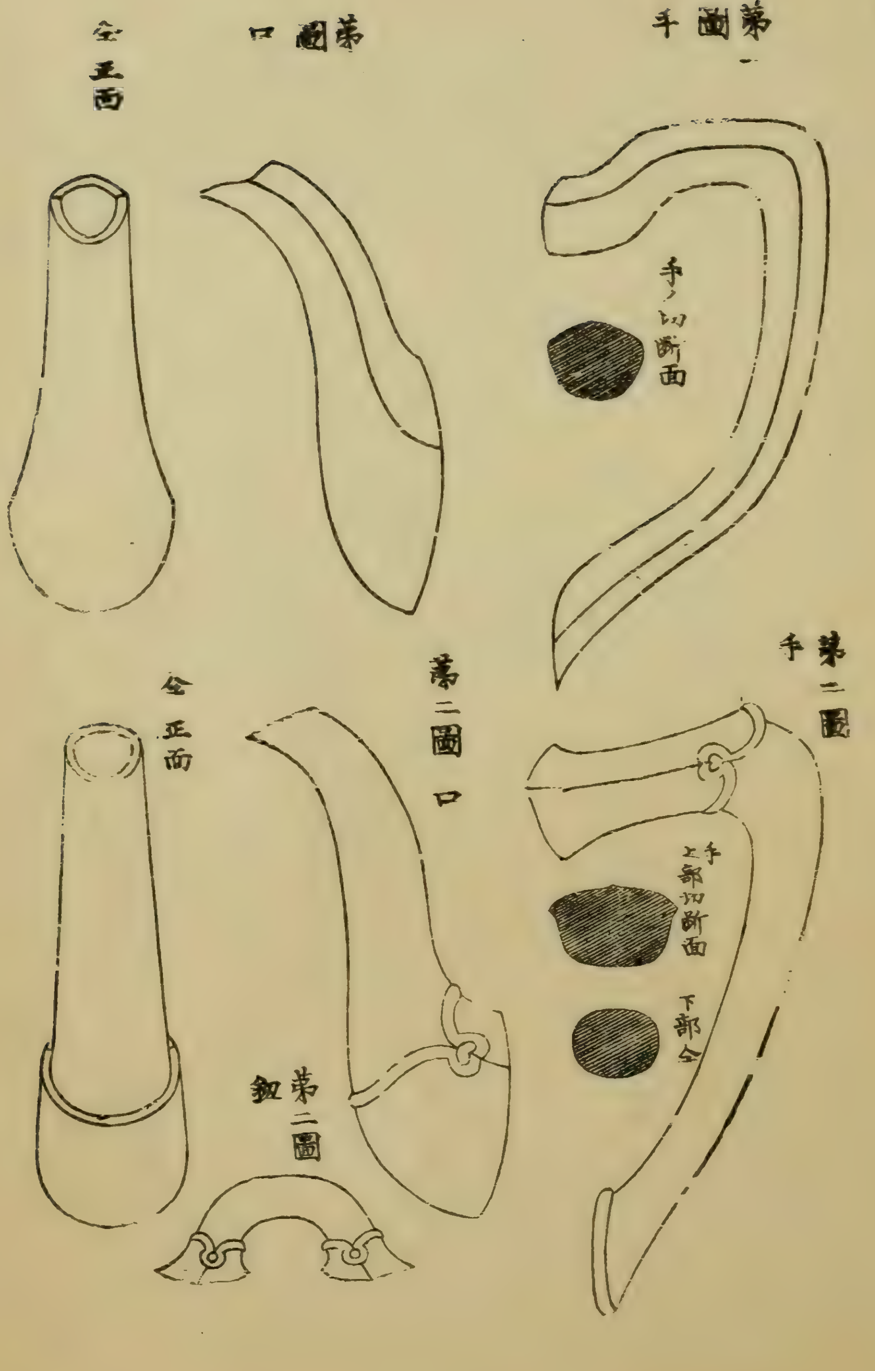
全鈕獸式

第八圖鈕獸式

第九圖耳獸首式

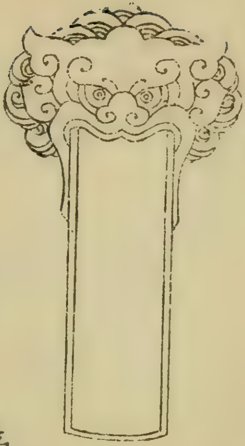


第十圖手蟠龍式


第一圖 口
仝正面
第一圖 手
手ノ切断面
第二圖 口
仝正面
第二圖 手
手上部切断面
下部仝
第二圖 鈕

第二圖 獸首式耳

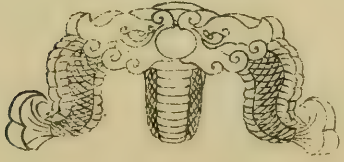
第二圖ノ正面



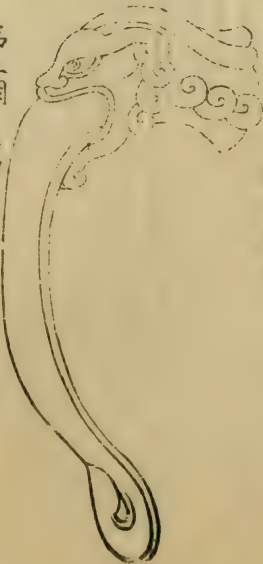
第六圖 獸首式耳

第四圖 鈕

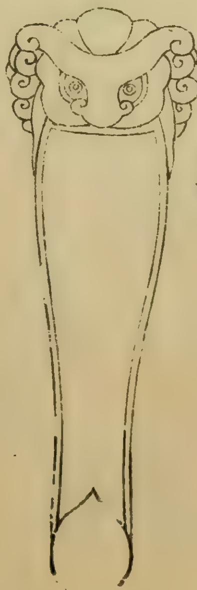
第七圖 鈕



第五圖 蝸首式耳

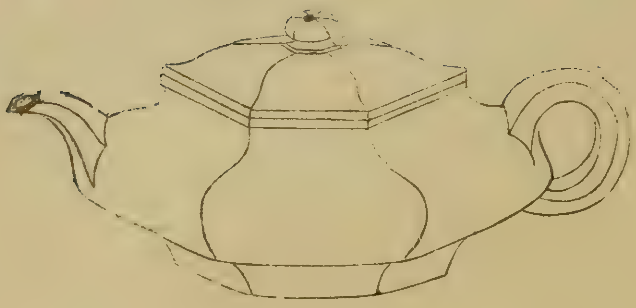


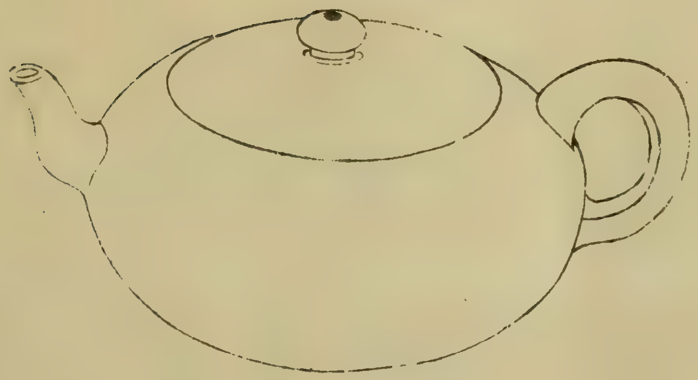
第五圖ノ正面



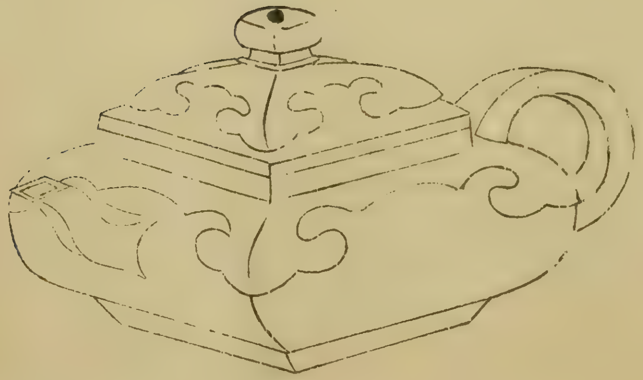
第八圖 螭竜式耳

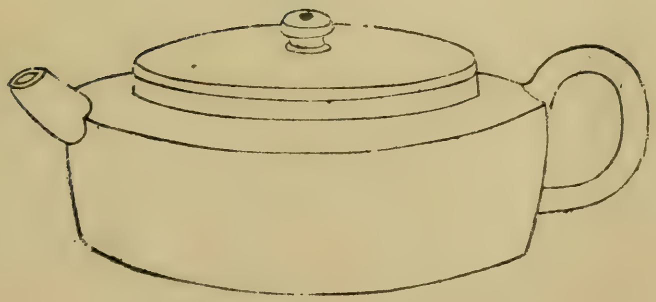
茗壺圖録之内ニ見エ

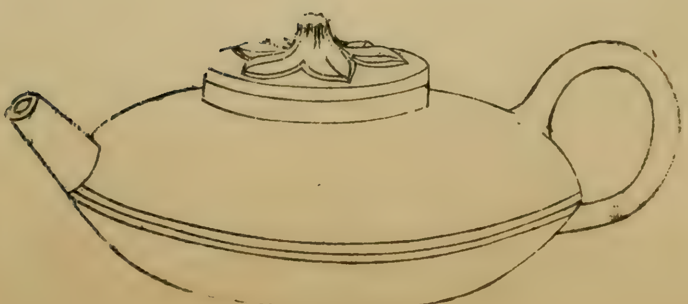




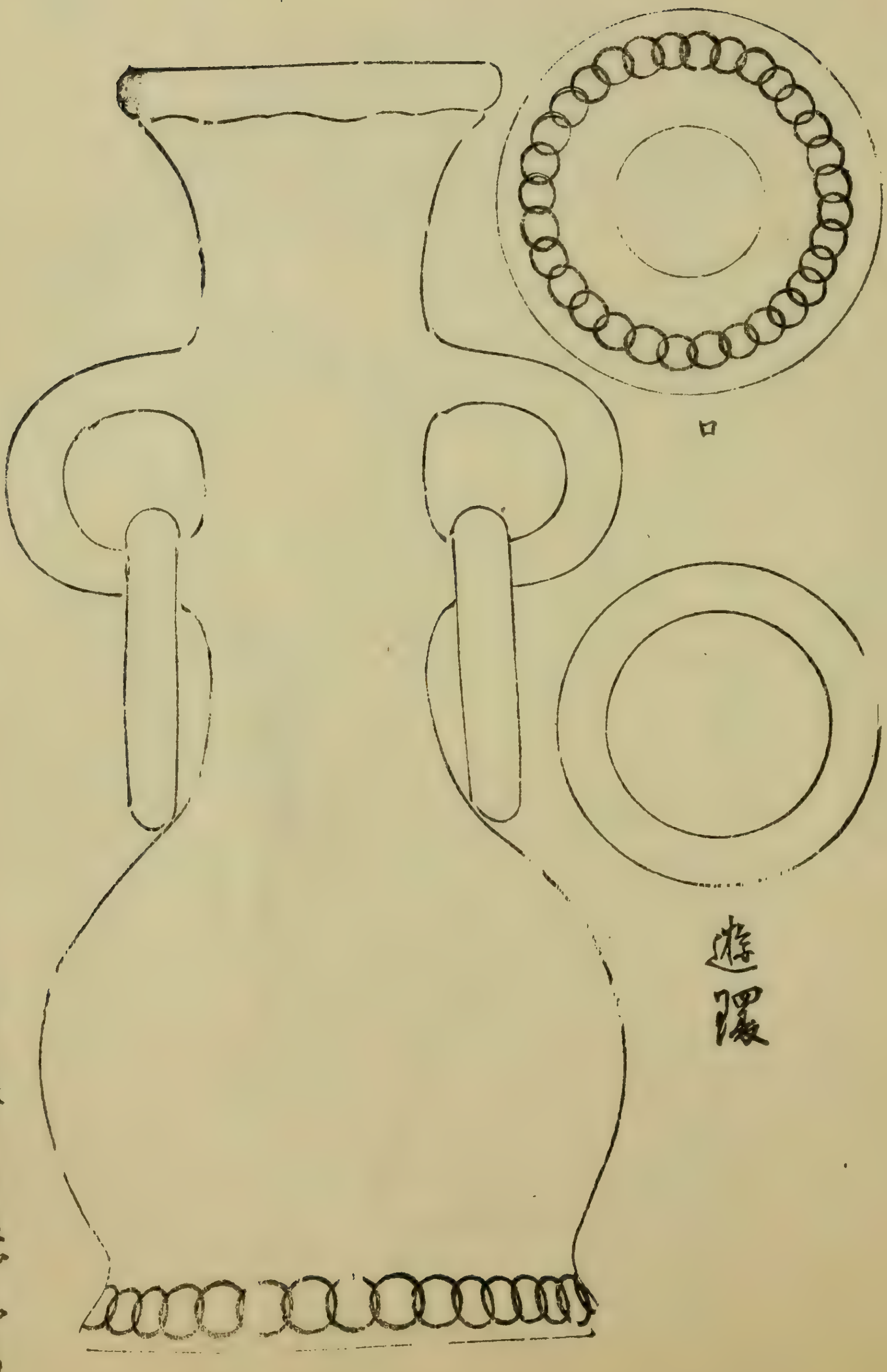
茗壺圖録之内ニ見エ





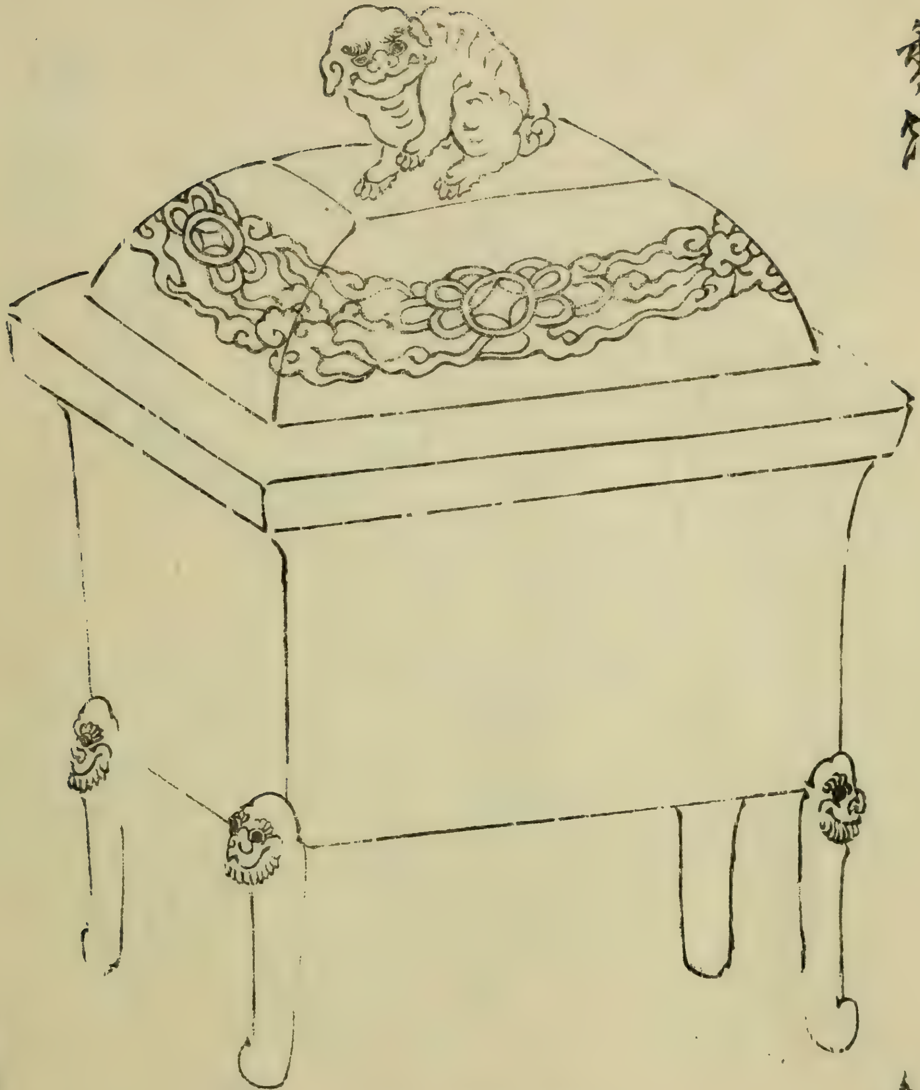


磁器投壺

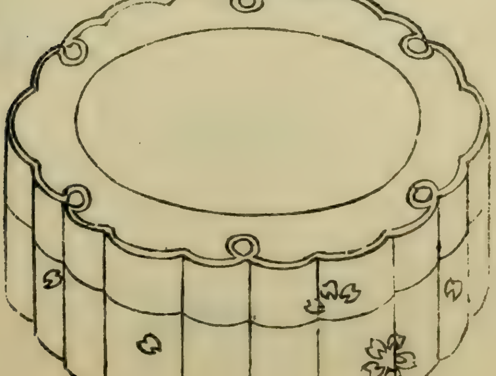


会員 春名繁春写

香爐



香合

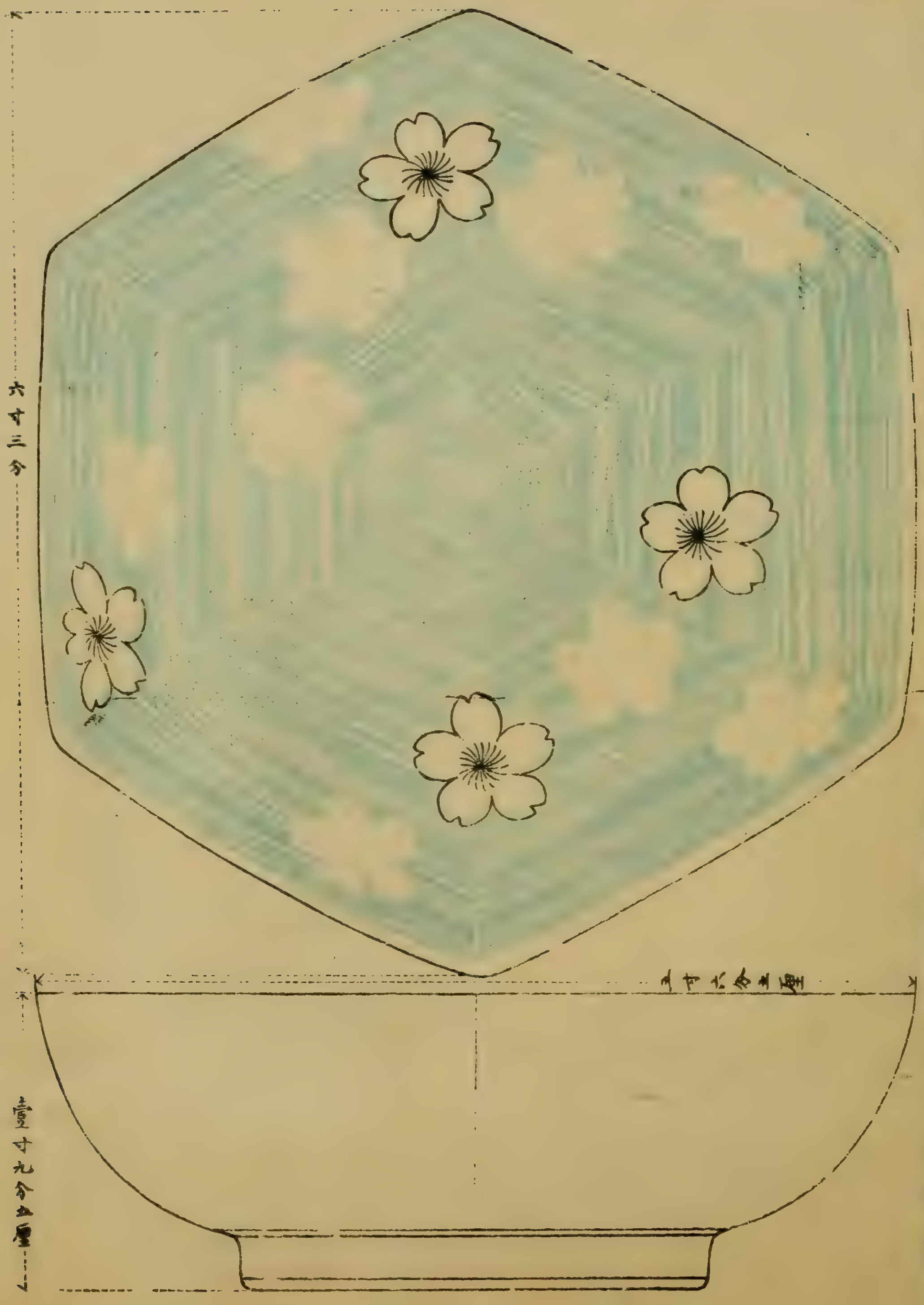


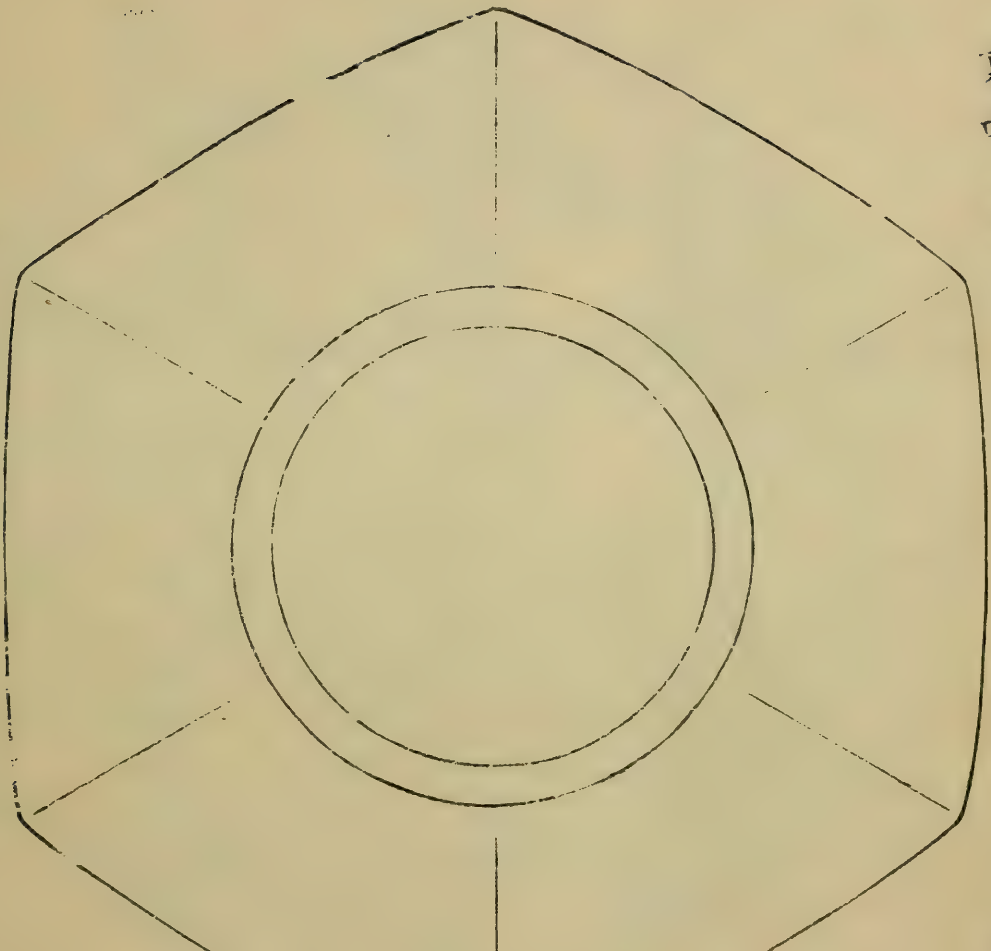
香具 春名繁春寫

第貳圖

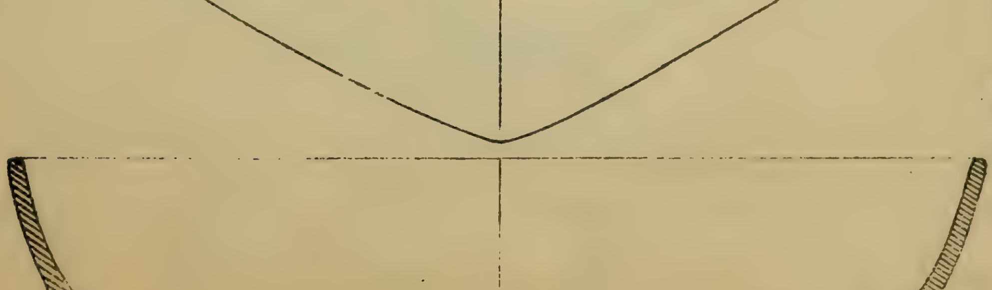
大河内燒小鉢藍染附六角式蜘蛛巣散花意匠

本會評議員山本五郎君藏

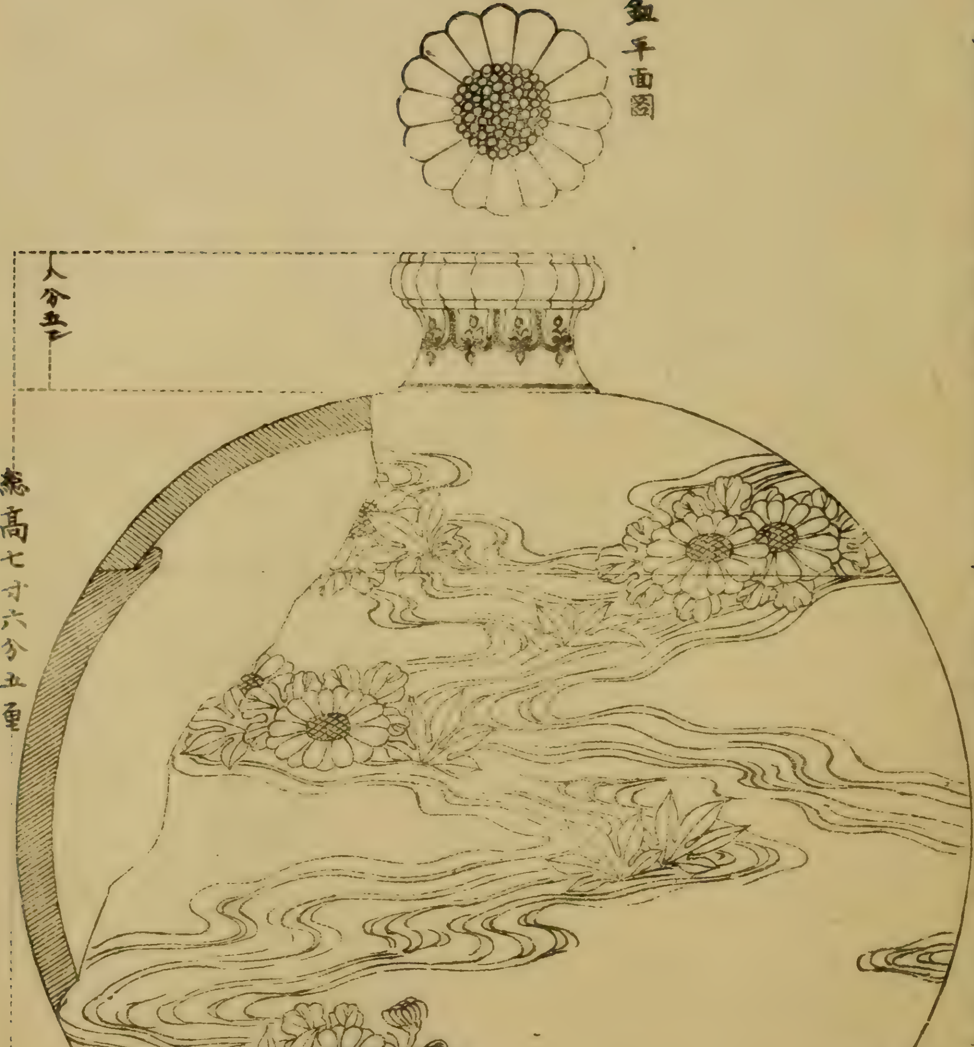




裏面 紋樣畧ス

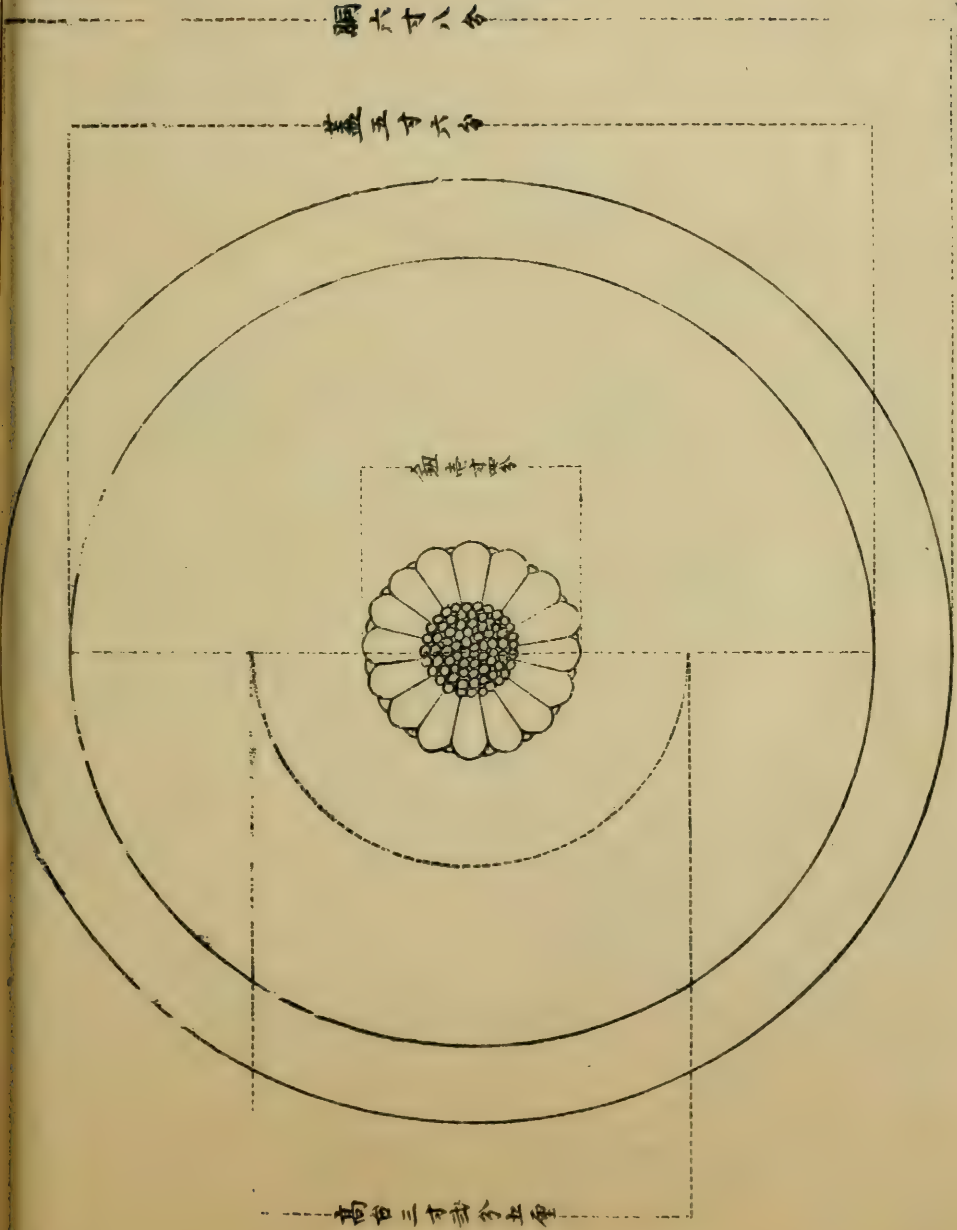


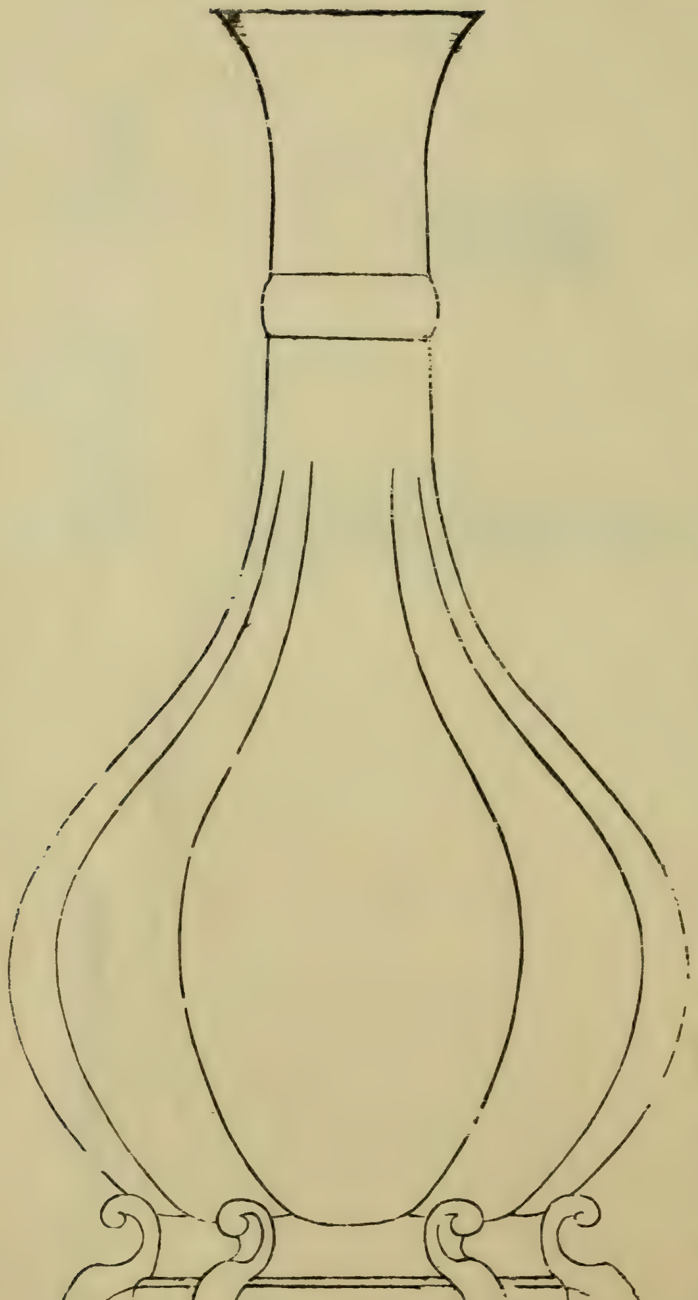
仝切斷圖



鈕平面圖
八分五厘
總高七寸六分五厘
五分

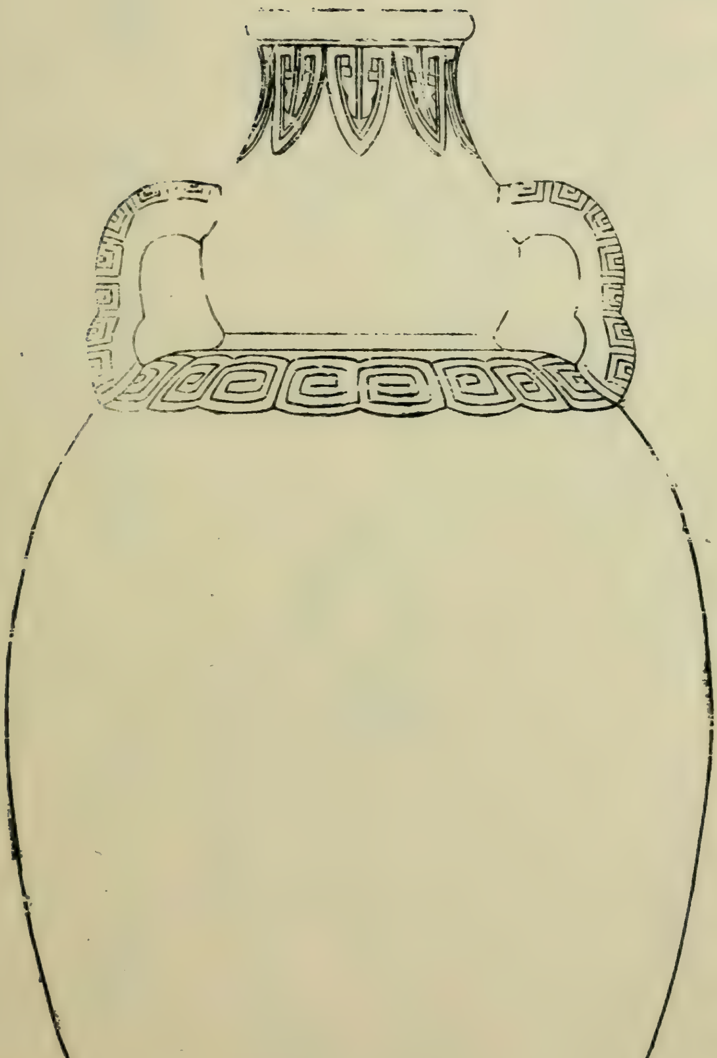
合平面圖寸法





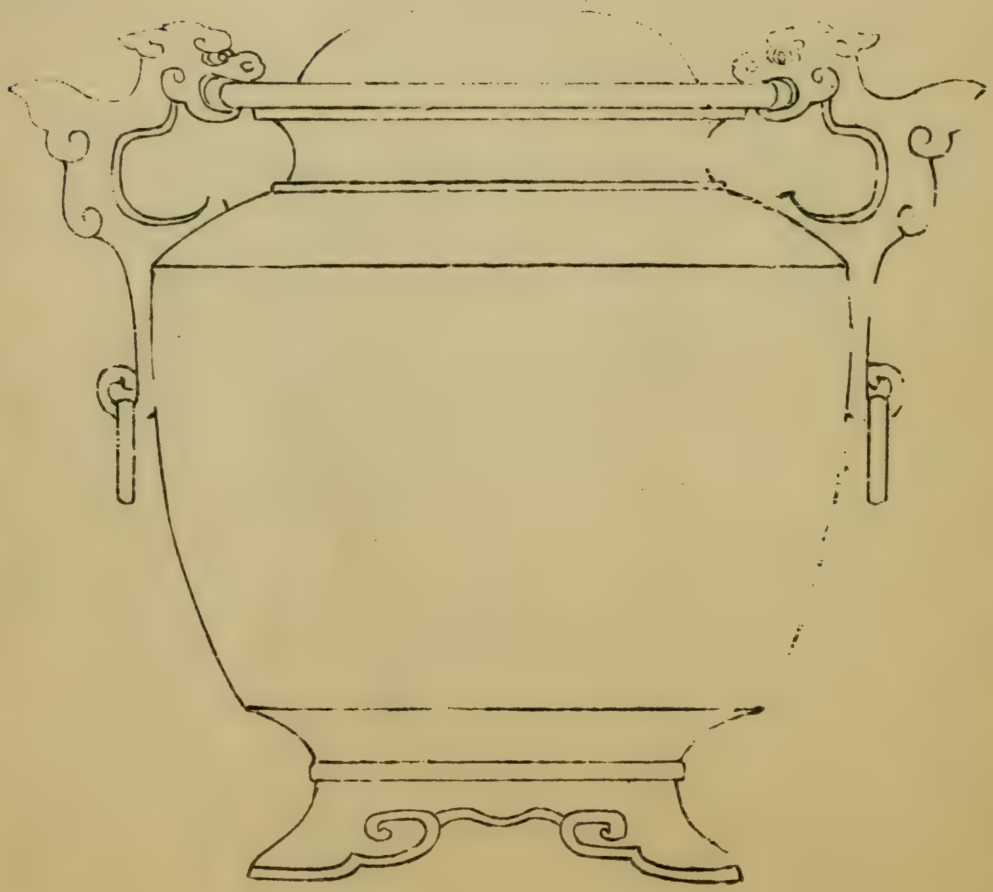
辰砂燒 花瓶 臺紫檀 大サ如圖

會員 平塚浦太郎 圖



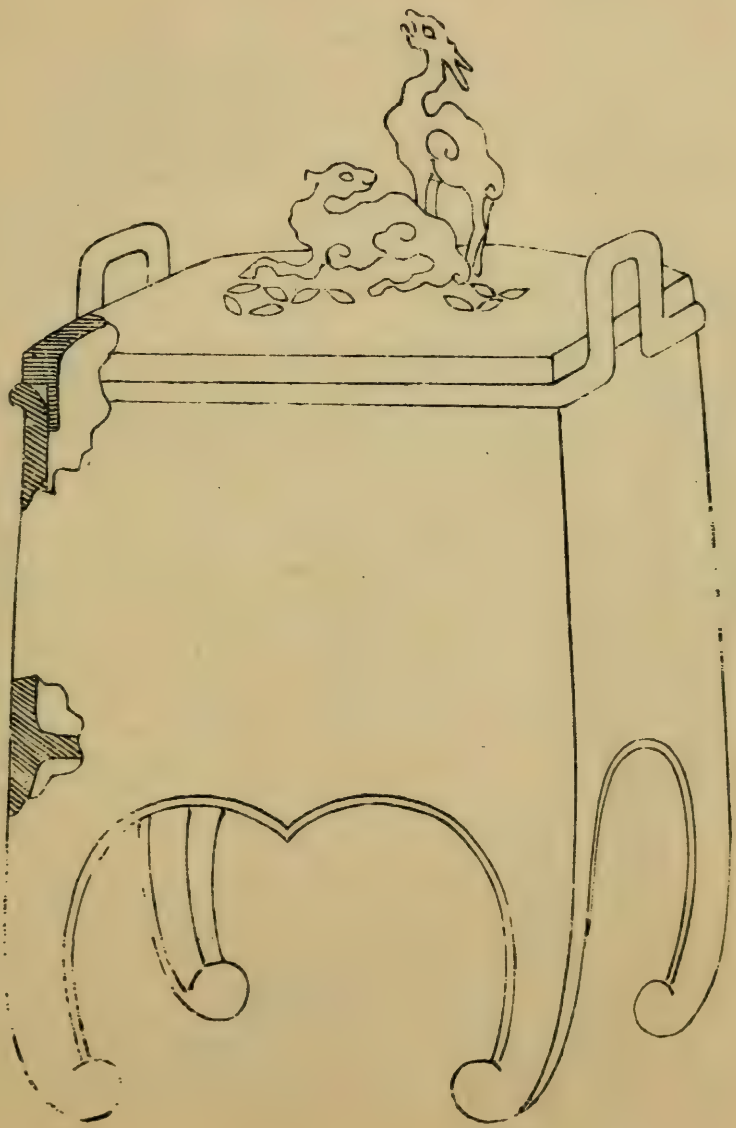
伊部燒　花瓶　大サ如圖

會員　平塚弥太郎圖

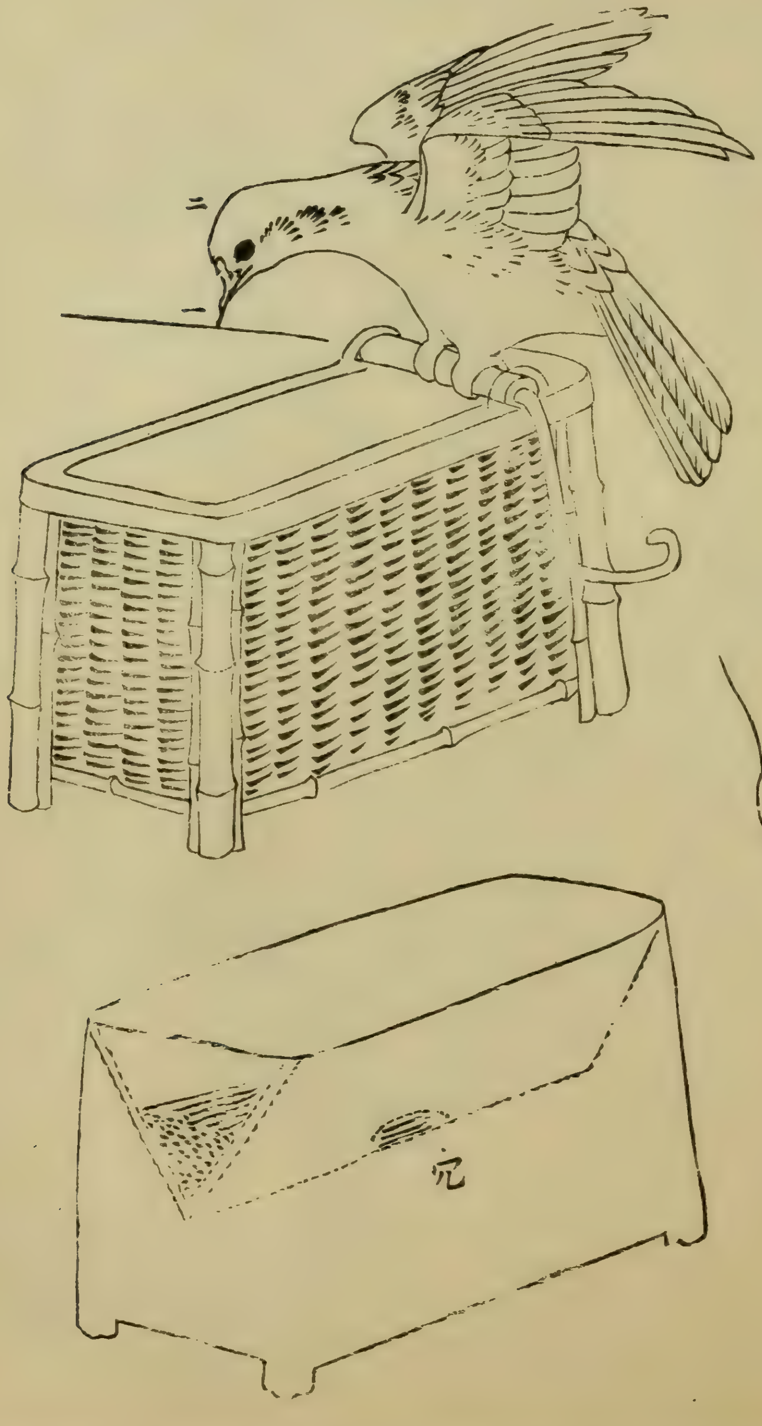


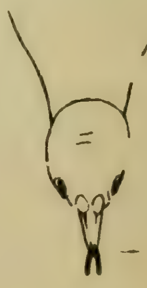
香爐

香爐

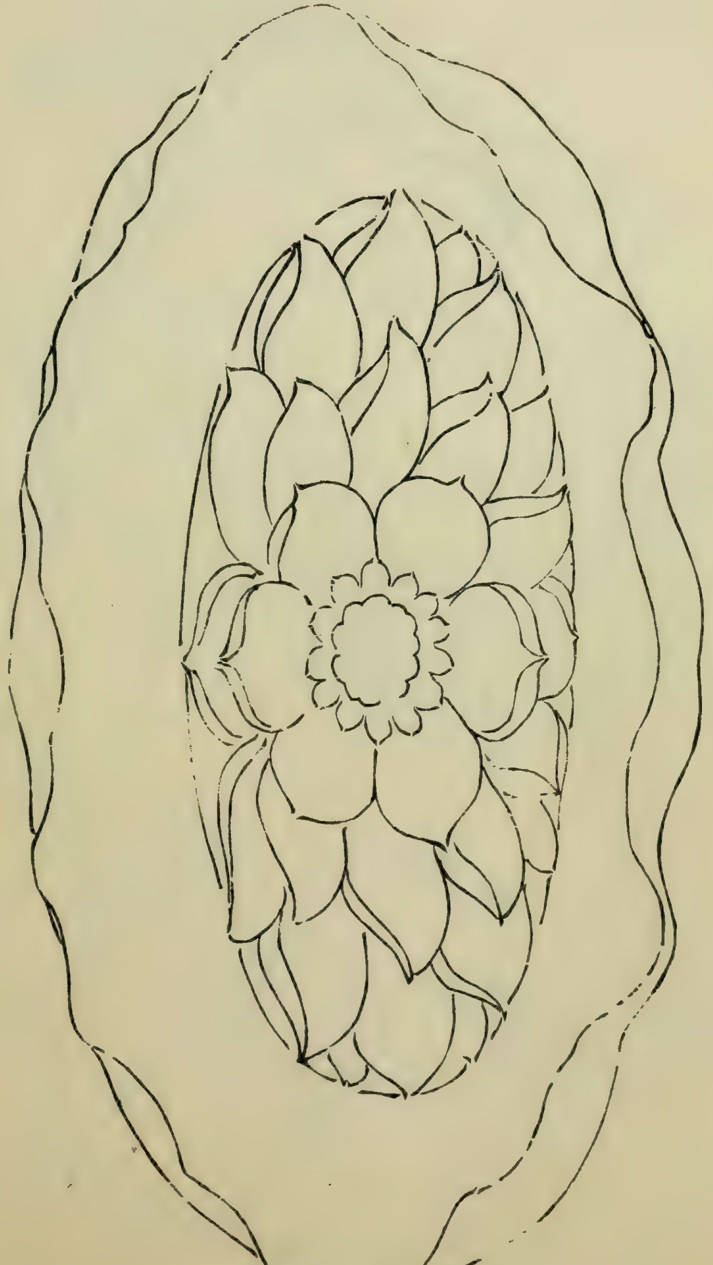


楊枝入

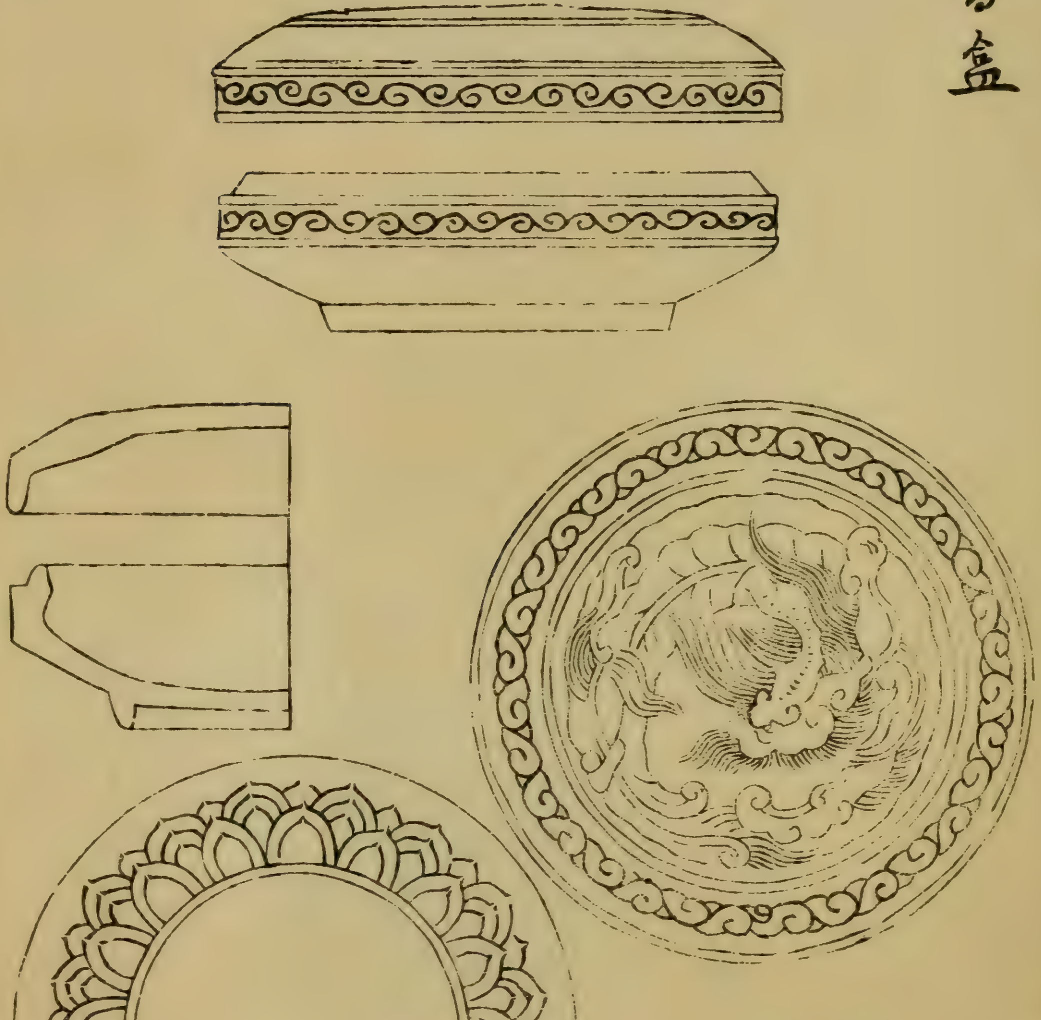




存星蓮葉式盆

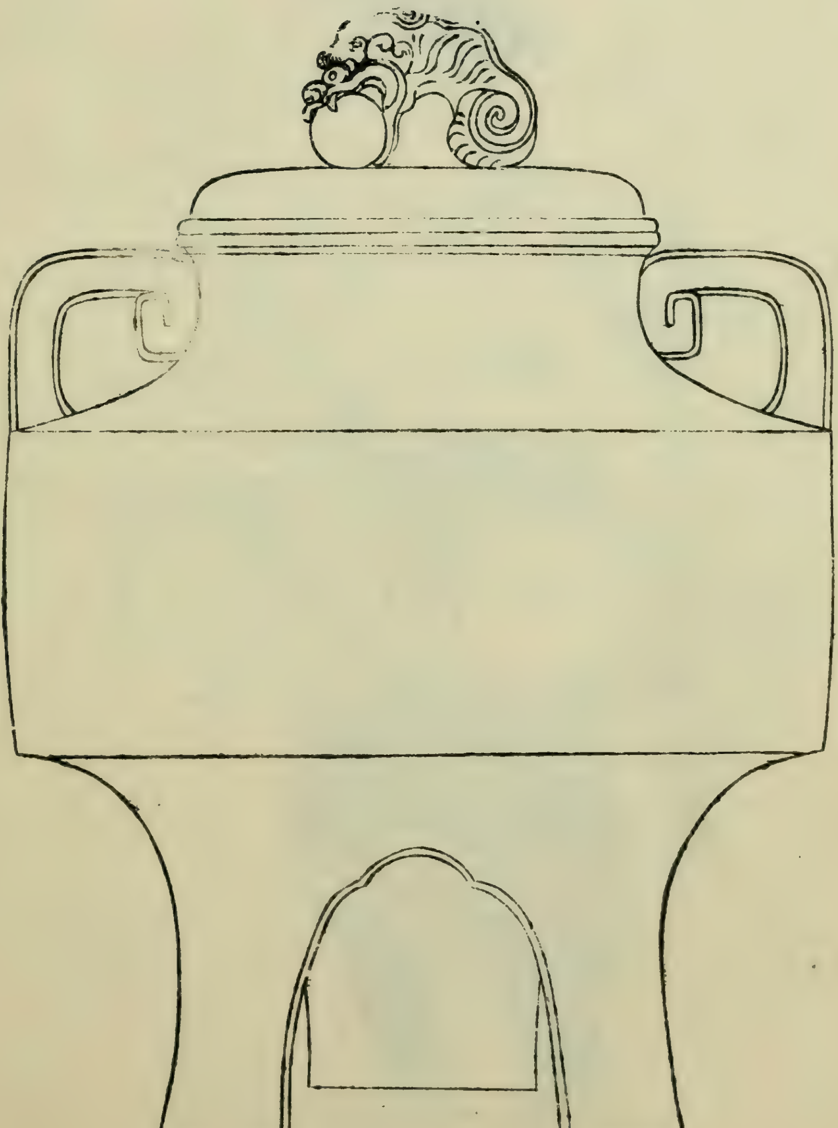


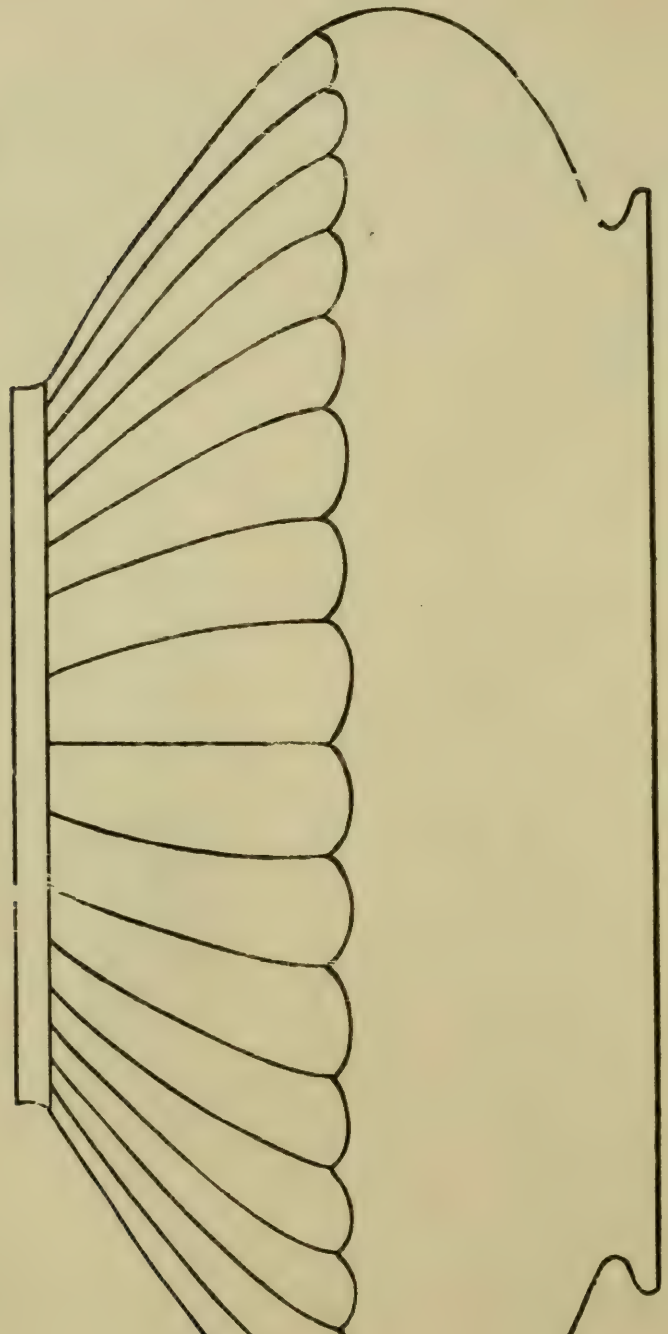
香盒

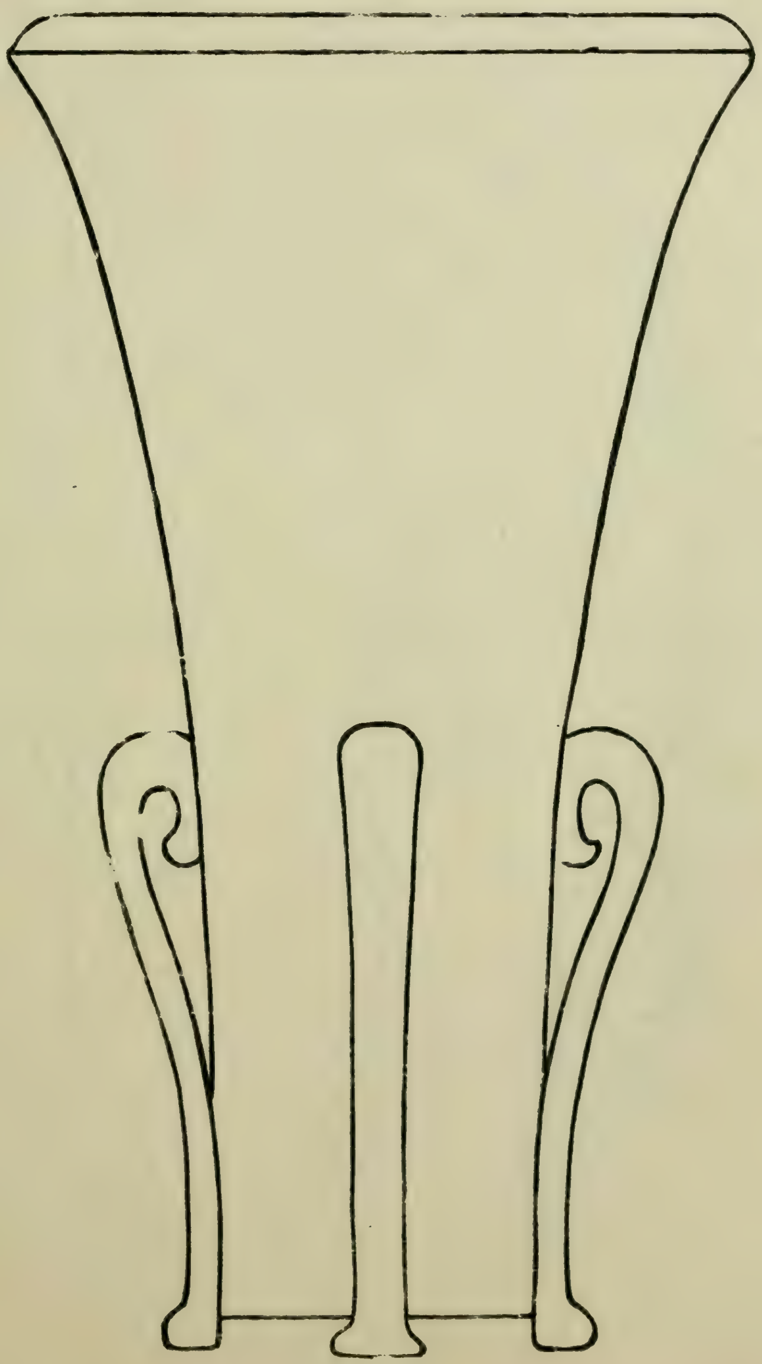


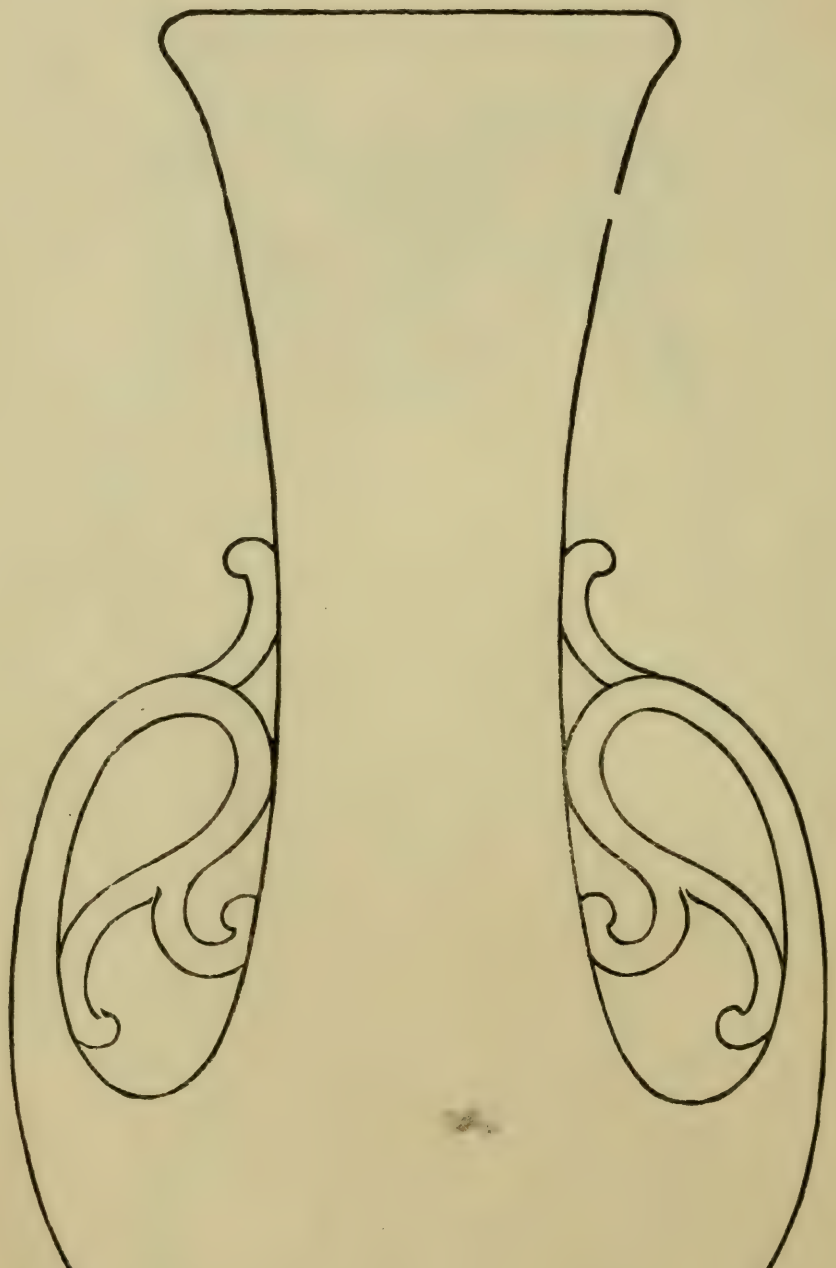
螺鈿之岫盆

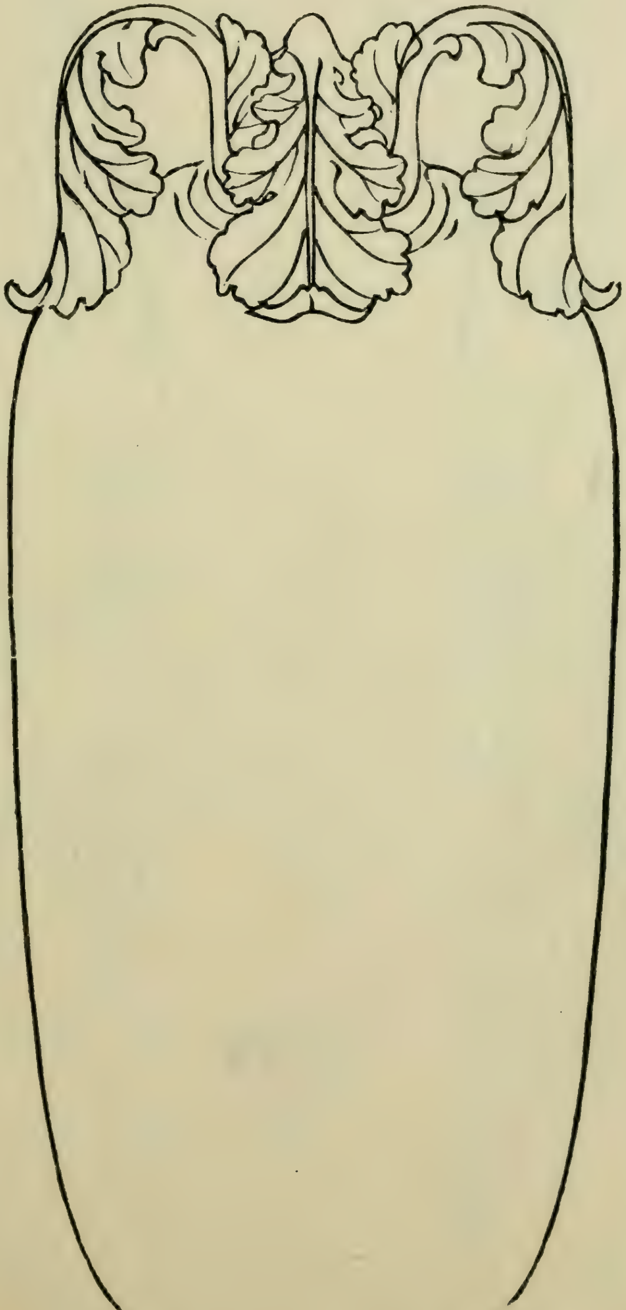
香爐

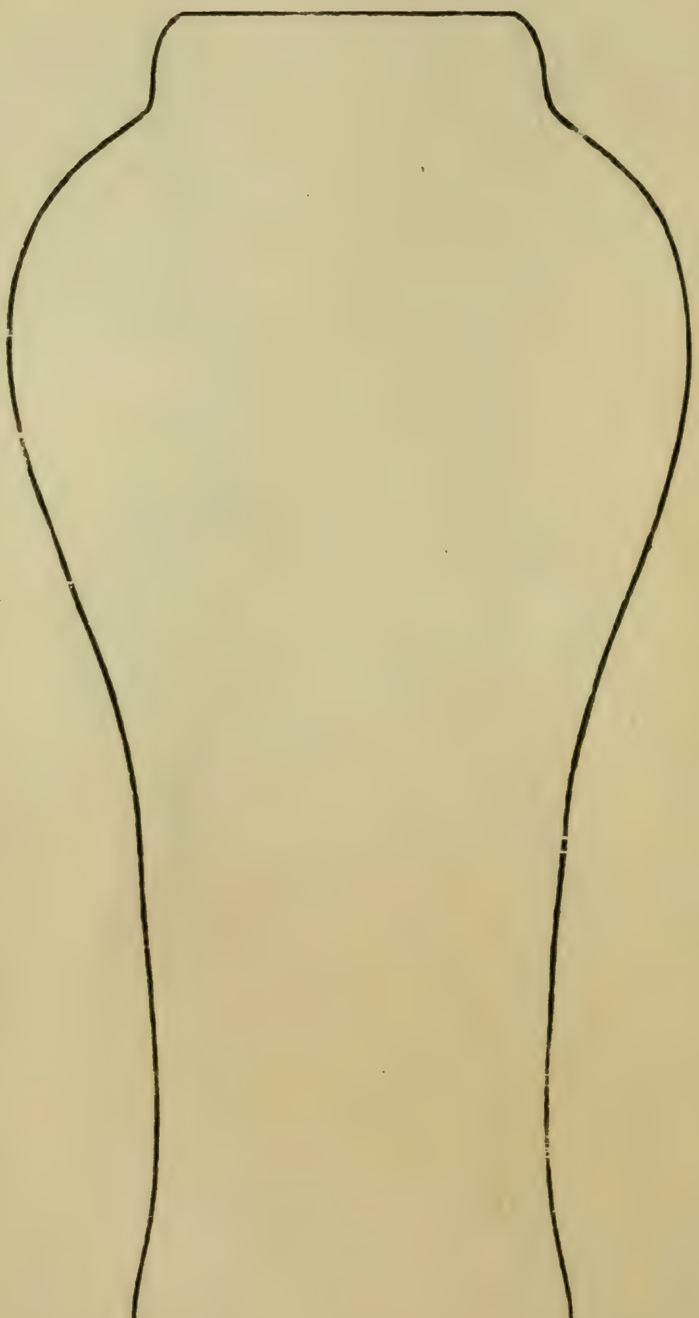


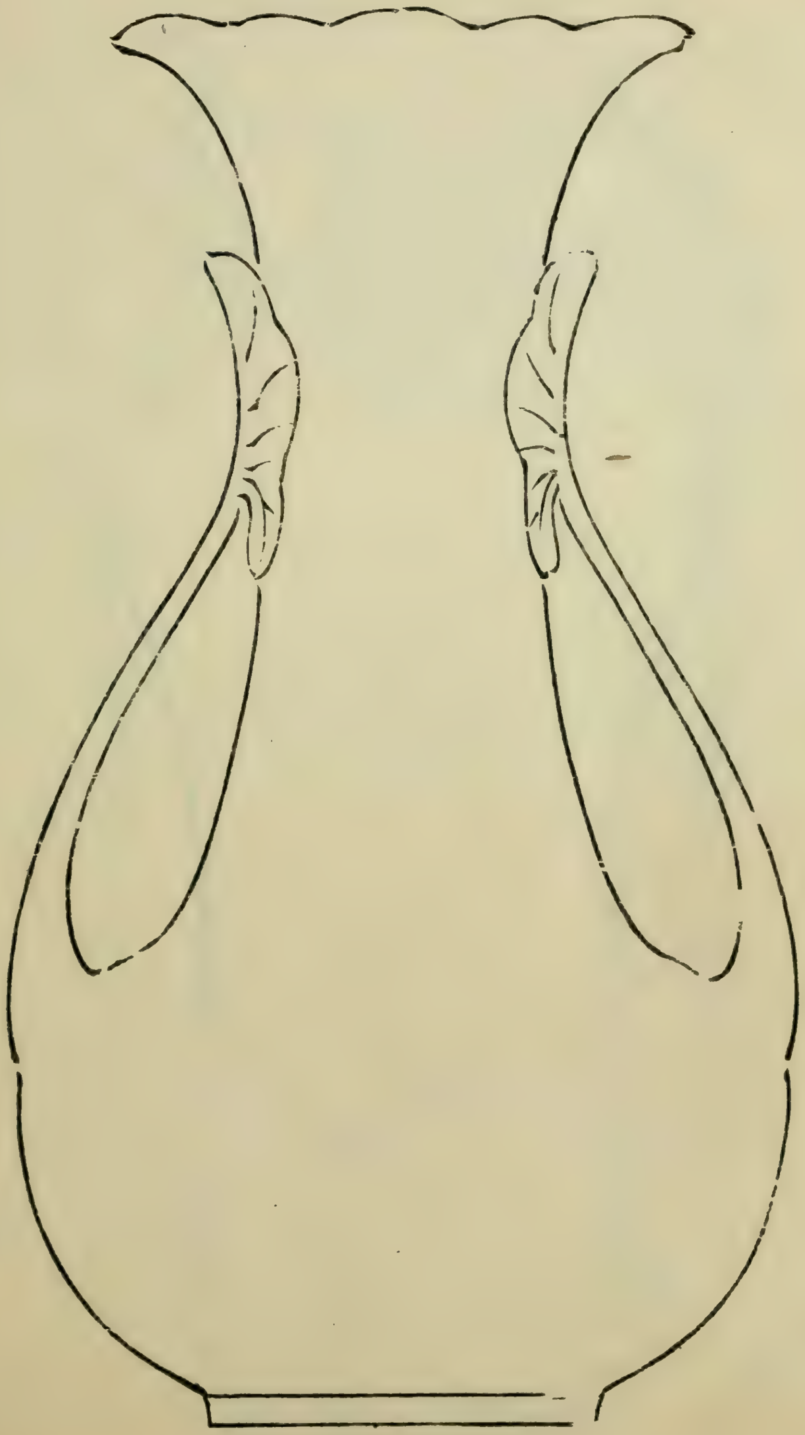


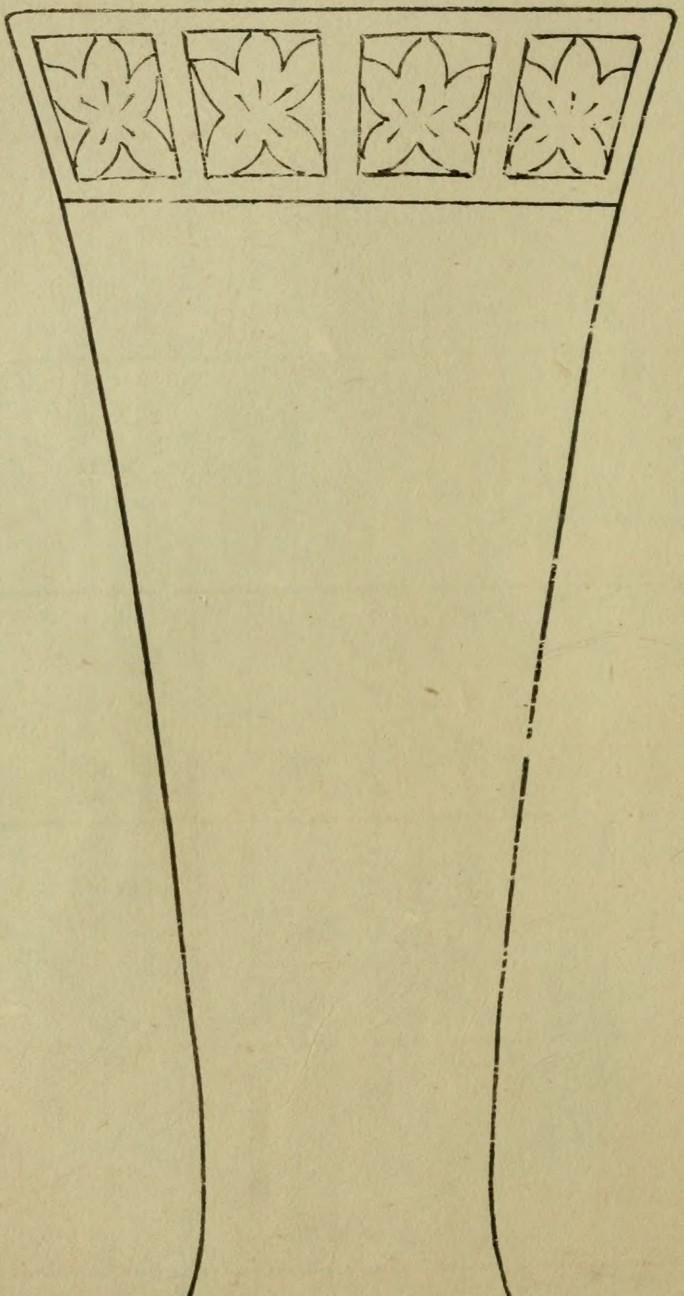












菊形花瓶圖案

會員 春名繁春考按